

ホワイトハウス北極科学技術大臣会合

共同声明

(仮訳)

2016年9月28日 ワシントンDC

我々（AC（北極評議会）メンバー国とその他の14か国とEUを代表する閣僚、先住民団体）は、北極における科学的協力を向上させることの重要性を主張するために集まった。北極に関する協力のポテンシャルに焦点を当てるため、世界の科学技術大臣が初めて一堂に会した。北極での環境、社会、経済の変化及びこれらの変化が地球全体に及ぼす影響を鑑みれば、我々は将来世代に対して、協力の遺産を引き渡す責任を負っている。

北極は、地球の他のどの地域よりも急速に環境変化や気候変化が進んでおり、この変化は、北極圏に住む人々だけでなく、地球全体に影響を及ぼしている。また、人々の北極域に対する科学的理解を増大させることは非常に重要であり、我々の関心事項である。一方で、これらの変化は、イノベーションや持続可能な開発のための機会も生み出している。我々は、適切な政策決定のためには、伝統的な現地の知識や、科学・技術の情報の共有が重要であることを認識している。我々は、これらの目標を達成するためのゴールを目指し、そのためのステップと当面の行動を特定するために集まった。

これらの努力は国境を越える課題に対応するものであり、それ故、高いレベルの国際協力を必要とする。近年の、観測能力の進展（地上観測、海洋観測、航空観測、宇宙観測、地域観測、データ解析、ネットの活用）は、北極の研究の機会とデータ共有の機会を提供する。今回の会合で、以下の4つのテーマの下、新たな共同作業のための共同の貢献を発展させる。

1. 北極科学を取り巻く課題とその地域的・全球的影響

北極域の急速な温暖化と、それに伴う氷河の後退、グリーンランド氷床の融解、永久凍土の融解、海水の多年氷の消失は、北極の人々と生態系に影響を与えるだけでなく、世界的にも重大な影響を与える変化の一例である。これらの変化は、沿岸及び内陸の住民に影響を与え（生業の狩猟・漁業への影響、海岸浸食の加速、永久凍土上のインフラへのダメージ含む）、海面上昇をもたらし、温室効果ガスを増加させ、北半球の気象変化に影響を与える。同時に、いくつかの変化は、航

路、漁業、資源開発の機会を拡大している。我々は、北極の気候及び環境システムの急速な変化の原因と結果の理解を深める協力を強化する。我々は、北極と地球システムの観測、データ、モデル、予測を強化する。我々は、持続可能な開発と地域的、世界的な気候変動の緩和・適応のための戦略と行動を発信する。さらに、北極の変化が北極以外の地域の異常気象や気候変動に与える影響についての研究を強化する。

2. 北極観測と観測データ共有の強化

北極域の大部分ではデータが不足しており、一部では観測の不足とデータアクセスの不足が組み合わさって事態を悪化させている。これらの不足は科学の進歩や付加価値の高い製品やサービスの開発や社会と環境の変化に適応する革新的戦略策定を妨げる。我々は、科学に基づき統合され現地の知見を活かすような北極観測システムを共同で開発すること、重要指標を継続的に観測し、気候変動を包括的に研究できるようになること、技術開発を行うこと、データ・製品・サービスへのオープンアクセスを確保することを誓う。この観点から、我々は、SAON（持続的北極観測ネットワーク）のイニシアティブの重要な役割を認識し、北極観測とデータ共有と現地コミュニティに根付いた観測に貢献する他の国際科学機関の継続的な科学協力を奨励する

3. 北極地域の強靱性と世界的な取組のための北極の科学的理解の促進

北極圏の住民は、教育、医療サービス、水、衛生サービス、エネルギー、通信、インフラ、運輸面での課題に長年直面している。これらの課題に、北極域外に起因する環境変化、気候変化、社会経済変化という課題が加わってきている。北極圏のコミュニティの強靱性、適応力を強化するためには、生態系の変化の理解促進、技術の導入、健康と生活の質の向上のための研究、観測や政策決定における地元の伝統的な英知の活用、情報共有が必要である。急速な北極の気候変化とその世界的な影響の理解は、世界全体の責任であり、そのためには研究でのパートナーシップが必要である。積雪、海氷、陸氷の減少は全球的な気温、平均海面、生態系、気象に影響し、さらなる永久凍土融解は温室効果ガスの急速な放出につながる。我々は、北極の環境変化の原因、影響、今後の変化に対する共同理解を強化する。我々は、この理解増進が、北極の開発、商業活動、管理、先住民のニーズに関する国の政策決定に活かされるように協力する。

4. 北極科学を活かしたSTEM教育（理数科教育）による市民のエンパワーメント

STEM教育（理数科教育）は、市民のエンパワーメント、市民の活躍、持続可能な開発に不可欠である。北極の人々、北極での活動を予定している官民の人々が、より強化された北極の科学的な取組から最も利益を受ける。そして、その北極の科学的取組が、北極の課題と機会の進展に呼応した意思決定に役立つのである。しかしながら、伝統的な現地の知識と科学の結合は、全ての人々の科学に対する興味と理解を促進する原動力でもあるべきである。我々は、北極だけでなく北極以外の地域でも、公式・非公式にかかわらず理数科教育を通じて、北極科学を推進する利点を理解するよう協働する。

この会議を通じて、我々は、参加国、EU、先住民団体が、北極での科学研究の協力を強化することが重要であると認識していることを示した。我々は、今年設立20周年迎える北極評議会がこれまで北極の科学協力を主要な役割を果たしてきたことを認識している。我々は、北極圏諸国が、北極評議会のもとで、北極科学協力を強化するための法的拘束力のある合意案に達したことを歓迎する。我々は、北極で研究を行う全ての国が、北極に対する科学的知識と理解を深めるために共に協力することをここに決意する。